

ローカル線で行く！ フーテン旅行記 12

－沖縄周遊路線バス紀行 後編－

岡山大学工学部機械工学コース助教

大西 孝



専門は機械加工（研削）。主に円筒研削や内面研削を対象として、工作物の熱変形や弾性変形に伴う精度の悪化を防止する研究を進めている。趣味は列車を使用した旅行（47 都道府県を踏破済）。

はじめに

沖 縄本島を巡る路線バスの旅。前編では沖縄本島の最北端へ向かいました。後編では、那覇から南部の戦跡を周るとともに、那覇市内を走るモノレールに乗って首里城を訪れます。奇しくも本記事が掲載される6月は72年前に沖縄戦が終結した月です。6月23日の「慰霊の日」には沖縄戦で亡くなった多くの人々を悼むとともに、地上戦の悲劇を後世に伝えるための式典が挙行されます。沖縄の歴史に思いを馳せながら、南部へ向かう路線バスに乗り込みました。

1. 南部の戦跡を周る 沖縄戦の爪痕

名 護から那覇市内へ戻った翌日は南部へ向かうバスに乗ります。南部の戦跡を巡るバス路線は沖縄本島の最南端にある糸満市から運行されていますが、那覇から糸満に向かう途中で、立ち寄っておきたい場所があります。これは那覇市の南端、豊見城（とみぐすく）市との市境にある「旧海軍司令部壕」。1945年4月に沖縄本島の中部に上陸した米軍は、日本軍を沖縄本島の南部に追い詰めますが、那覇市の北東部の首里を守っていた日本海軍の部隊は南部へ撤退する途中にこの海軍司令部壕で孤立し、同年6月13日には司令官が自決し、残る陸軍は島の南の摩文仁（まぶに）で最期を迎えます。琉球新報によると、戦後



旧海軍司令部壕のある小高い丘の上には慰霊碑が建っています。



慰霊と平和を願う千羽鶴が飾られたひめゆりの塔。塔の前に花を手向ける人も絶えることはありません。

の調査で壕内から2400体もの遺骨が集められたそうです。現在では自決に使った手りゅう弾の破片の跡が壁に残る幕僚室などが公開されており、壕の入口には慰霊碑が建てられています。多くの将兵が最期を迎えた当時の様子が壕内に残されています。糸満からは女子学徒隊の悲劇を伝える「ひめゆりの塔」、さらに沖縄戦の最後の激戦地となっ

た「摩文仁の丘」を通り、鍾乳洞の玉泉洞（ぎょくせんどう）へ向かう路線バスに乗り換えます。今でも多くの方が花を手向けていくひめゆりの塔に隣接するひめゆり平和祈念資料館では、学徒隊で生き延びたおばあさんが語り部として当時の悲



摩文仁の丘の沖縄平和祈念公園。左手に見える黒い石碑が「平和の礎」で、多数の碑が無言で並んでいます。

惨な様子を熱心に語ってくれました。目の前に陳列された遺品を紹介しながら、ご自身の知人や友人のものだと語られると、胸に迫るものがあります。筆者はここでつい時間を忘れて語り部の話を聞いていたため、予定していたバスに乗り遅れ、次の目的地である摩文仁の丘の沖縄平和祈念資料館へはタクシーで向かうことになりました。バスには乗り遅れましたが、第二次世界大戦から長いときを経た今、当時の様子を直接聞くことができたのは貴重な体験でした。



沖縄本島南部の戦跡を結ぶ路線バス。土曜日は1時間に1本の運転です。



「東洋一の景観」とされる玉泉洞。広い洞内には多くの鍾乳石が垂れ下がっており圧巻です。

沖縄県立平和祈念資料館では戦時下や戦後の沖縄県民の生活、甚大な被害を詳しく学ぶことができます。資料館の横の沖縄県立平和祈念公園には沖縄戦で亡くなった人々の名前を刻んだ碑が並ぶ「平和の礎（いしじ）」があり、6月23日の沖縄県の「慰霊の日」には追悼式が行われることからご存じの方も多いかと思います。ずらりと並ぶ碑を前にすると、いかに多くの人命が失われたかを実感します。バス紀行の最後は、先の大戦の爪痕を学ぶ少し心の重い行程でしたが、戦争の悲惨さは現地で見て学ぶと、教科書やテレビなどで見る以上に伝わってくるものがあるように感じました。



1月はサトウキビの収穫時期。刈取り中のサトウキビ畑を眺めながら南部から那覇へ戻ります。

戦跡を巡った後は「東洋一の景観」とされる玉泉洞で美しい鍾乳洞を眺め、那覇に戻ります。那覇までのバスは広大なサトウキビ畑の間を走り抜け、沖縄らしい路線でバス紀行を締めくくりました。

(岡山大学職員組合 組合だより 209号より加筆のうえ再掲)

2. 日本最南端の鉄道！ゆいレール

路線バスの旅を終えて那覇バスターミナルに戻ってきましたが、まだ夕方の飛行機まで時間があります。そこで渋滞知らずのモノレールに乗って、首里城を訪れることにします。このモノレール、日本最南端の鉄道であり、鉄道ファンとしては是非一度乗っておきたい乗り物でもあります。「日本最南端の鉄道は鹿児島県にあるんじゃないの?」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、1本のレールにまたがって走るモノレールも、法的には鉄道に分類されています。



首里城から眺める「ゆいレール」。2両編成でコンパクトですが存在感は抜群。

の「ゆいまーる」に由来するとか。沖縄には戦前に県営鉄道がありましたが、沖縄戦で破壊されたため久しく鉄道路線がありませんでした。しかし移動手段を自動車に頼った結果、那覇市内や周辺の交通渋滞が深刻になったため、ゆいレールの建設が急がれ、2003年に完成しました。



首里駅から首里城の石垣に沿って歩くと、沖縄らしい赤い瓦の建物が見えてきます。駅からお城へ向かう観光客は少ないのか、閑散としています。

那覇バスターミナルのすぐ近くにある旭橋駅から乗車する沖縄都市モノレールは、琉球王朝の古都である首里を結んでおり、「ゆいレール」の愛称で親しまれています。この愛称は、沖縄の方言で「助け合い」という意味

ゆいレールを利用する際には、700円の一日乗車券がお得で便利です。というのも空港と首里の往復料金が660円ですので、首里まで往復して途中で一度下車するとモトが取れますし、沿線の飲食店や観光施設で割引が受けられます。また、この1日乗車券は最初に自動改札機を通過してから24時間有



首里城正殿の玉座。本州のお城とはずいぶん内装も異なります。



こちらは有名な守礼門。首里駅の反対側にあり、観光客の大半はこちらから場内に向かうようです。

も見どころがありますが、何と云っても圧巻は首里城です。終点の首里駅からお城の石垣に沿って15分ほど歩いていくとやがて門が見え、そこから入ると正殿はすぐです。2000円札でお馴染みの守礼門は、正殿を挟んで駅と反対側にあるので少し歩く必要があります。首里駅からアプローチする観光客は少ないようですので、ゆったりと

効で、例えば夕方の飛行機で那覇空港に到着して市内に向かう場合に1日乗車券を使えば、翌日の夕方までゆいレールが乗り放題となり、日付が変わっても使えるという面白い切符です。

沿線には繁華街の国際通りや地元の食材が揃う牧志公設市場などいくつ



ご飯の上にスパムと目玉焼きがの載ったお弁当。沖縄ならではの味です。

広大なお城の中を散策
できます。

また、各駅の近くにある
地元の買い物客が通うスーパーで、お弁当
などを買ってみるのも旅の楽しみです。観
光客を相手にしている
お店とは一味違った、
地元ならではの味が楽



首里駅の近くにある地元スーパー。
沖縄独特の赤い瓦が使われています。

しめます。オリオンビールやさんぴん茶（ジャスミンティー）とともに、ご
飯の上にスパムが載った地元向けのお弁当を食べると、遠くに来たんだなど
いう実感が湧きます。

地元の香りを実感できるゆいレール。市内の渋滞を気にせず首里から空港
までを30分程度で移動できるので、旅の終わりに飛行機までの時間調整を
兼ねて首里城の周辺を散策するのもいいかもしれません。

（岡山大学職員組合 組合だより160号より加筆のうえ掲載）

おわりに

2 回にわたり路線バスとモノレールによる沖縄本島周遊記をお伝えしまし
た。沖縄の旅行といえば、多くの方が貸切バスかレンタカーを使われる
ことと思います。しかしながら、いつも旅行記でとりあげるローカル線の旅
と同じく、地元の風が感じられる路線バスの旅もまた楽しいものです。いつ
もとは違う沖縄旅行をお考えの方にはお勧めです。